2025年度 人権学校

※参加無料・定員 各約40人
事前申し込み不要

戦後80年

テーマ

人権の視点から平和(戦争)を考える

今年度の人権学校のメインテーマは、上記のとおりとしました。今年は戦後80年の節目の年となります。もう〝あの戦争〟を体験した人々は、わずかとなってきています。

しかしながら、世界を見渡すと現在進行形で戦争(内戦・紛争)や集団的虐殺(ジェノサイド)がくり広げられています。

戦争は〝最大(究極)の人権侵害〟といわれていますが、世界(地球)規模では、80年どころか第2次世界大戦後もどこかではずっと続いています。そこでは、「正義のため」、「自衛のため」、「民主主義のため」などの名目(美名)のもとに・・・・。

これらは決して日本(人)においても対岸の火事で済ましてはいられないと思います。国内においても分断や排外主義が拡がってきています。ひとり1人の人権を大切にしたいと考えている私たちにとっても深く考えなければならないテーマだと考えます。今回の企画がその一助になれるように皆さまと共に学び合いたいと思います。

第1回 11月14日(金) 午後1時～3時 会場:アステ市民プラザ

アステ川西6階
(マルチスペース2)

テーマ「戦争はなくすことができるか?
～国際政治学の視点から～」

講師 足立(あだち) 研幾(けんき)さん(立命館大学国際関係学部 教授)

【プロフィール】・・・◆1974年生まれ ◆京都大学法学部、筑波大学大学院国際政治学研究科 卒 ◆2024年～ 衣笠総合研究機構長

◆国際関係学は「戦争をなくす」ことができるのでしょうか?

ー私の専門分野である国際政治学は、第一次世界大戦という大きな戦争を経験した人類が、この悲劇を繰り返さないためにはどうすればよいかを考えるためにできた学問です。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの紛争など、日々悲惨な報道に接していると悲観的な考えにとらわれてしまうかもしれませんが、世界全体でみると、武力紛争による人口当たりの死傷者数は10分の1以下へと大きく減少しました。国際政治学は着実に成果を上げているのです。まずはこのことを知り、希望を持ってほしいと思います。

第2回 11月26日(水) 午後1時半～3時半 会場:総合センター

(1階視聴覚室)

テーマ「いま平和について考える
～トランプ2.0の時代に我々は何ができるか～」

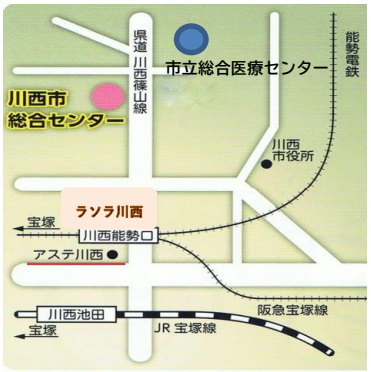
講師 君島(きみじま) 東彦(あきひこ)さん(立命館大学 国際関係学部特命教授・国際平和ミュージアム館長)

【プロフィール】・・・◆1958年生まれ ◆早稲田大学法学部 卒 早稲田大学法学修士 シカゴ大学法学修士

◆2004年 立命館大学国際関係学部教授 ◆2016年 日本平和学会会長 ◆2023年～ 国際平和ミュージアム館長

◆専門・研究 : 憲法学、平和学ー憲法を国際政治学、国際関係論、平和学の視点から考察しています。

◆論文 : 2025年「東アジアの中の立憲平和主義ー過去・現在・未来」(月刊『地平』8月号)
2024年「いま平和をとらえ直す4つの視点ー国家ではなく市民から考える」(はらっぱ)など

◆社会活動 : 2025年8月ー憲法9条と平和!(MBSラジオ出演) など

■主 催 川西市人権啓発サポーター会・人権推進多文化共生課
■後 援 伊丹人権擁護委員協議会川西部会
■そ の 他 手話通訳をご希望の方は、11月7日(金)までに人権推進多文化共生課へ。
■問い合わせ 市人権推進多文化共生課 TEL 072-740-1150
【mail】kawa0014@city.kawanishi.lg.jp